

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	建築光環境デザイン小委員会		主 査 名：吉澤 望 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：古賀 靖子
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・設置目的：建築家を招き、光をテーマにしたシンポジウムを開催する。建築家・研究者・デザイナー・心理学者など様々な立場から討論を行い、光に対する社会的関心を高める。 ・各年度活動計画 2011 年度：第 10 回光環境デザインシンポジウムの開催 (2012 年 1 月) 2012 年度：第 11 回光環境デザインシンポジウムの開催 (11 月) 2013 年度：第 12 回光環境デザインシンポジウムの開催 (9 月) 2014 年度：第 13 回光環境デザインシンポジウムの開催 (2015 年 3 月) 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：吉澤望(東京理科大学) 幹事：北村薫子(武庫川女子大学) 委員：石井大五(フューチャースケープ建築設計事務所)，内田伸(石川工業高等専門学校)，佐藤勉(駒沢女子大学)，鈴木広隆(神戸大学大学院)，関博紀(東京大学 大学院)，中村芳樹(東京工業大学大学院)，野澤壽江(近田玲子デザイン事務所)，坂東卓(清水建設株式会社)，松下進(松下進建築・照明設計室)，三木 保弘 (国土交通省国土技術政策総合研究所，古賀誉章(東京大学大学院)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2014 年度予算	56,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第 13 回光環境デザインシンポジウム 資料名：同上 参加者数 60 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築家の永山祐子氏を迎えシンポジウムを開催した(2015.3.13)。インタビューや実測調査にも積極的なご協力をいただき、充実した準備の上でシンポジウムを実施した。
委員会活動の問題点・課題	1. シンポジウムの実施にあたっては、同時に小委員会を開催するほうが合理的である。今後、委員交通費等を小委員会予算から支出できるようになれば、予算の有効な利用、学術活動もさらに活発になると考えられる。

20 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 2011年度は、2012年2月27日に、建築家・西沢立衛氏を迎えて第10回光環境デザインシンポジウム(於：東京大学福武ホール)を開催し、実務者を中心に多くの参加を得て盛会であった。小委員会で事前に西沢氏の作品から青森県の十和田市現代美術館の光環境実測調査を行い(12月)、西沢氏をつくる光について分析した。シンポジウムでは、講演、対談のほか、参加者からの質問も多く、設置目的のとおり、広く社会的関心を高めることができた。</p> <p>2. 2012年度は、2012年11月21日に建築家・藤本壮介氏を迎えて第11回光環境デザインシンポジウム(於：東京大学福武ホール)を開催し、好評を得た。小委員会で事前に藤本氏のインタビューを実施し(11月)、光の設計に関する話を伺った。また、作品の調査を行い(10～11月)十分に準備を行った。シンポジウムでは、藤本氏の実作を紹介いただき、委員との対談のほか、会場の参加者の質問も受けて設計における光の重要性を語っていただいた。</p> <p>3. 2013年度は、2013年9月10日に、建築家・槇文彦氏を迎えて第12回光環境デザインシンポジウム(於：東京キリストの教会)を開催し、大変多くの参加をえて盛会であった。はじめての試みとして、建築家の作品を会場として開催することを計画した。建築家の思いを実際の作品の中で話していただいたほか、後半には参加者が建築家と近い距離で話し合えるワークショップ形式とし、大変好評であった。</p> <p>4. 2014年度は、2015年3月13日に、建築家・永山祐子氏を迎えて第13回光環境デザインシンポジウム(於：建築家会館ホール)を開催する。事前に、永山氏のインタビューを行い(11月)、光や色・マテリアルの意図等について伺った。永山氏の作品からカヤバ珈琲店、木屋旅館、豊島横尾館の視察や光環境実測を行い、これらの解析をもとに有為なシンポジウムとする計画である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。